

## 博士論文要旨

看護学研究科	学籍番号 186101 氏名 浅井 直美
論文題目	「病院の勤務経験を有する新人訪問看護師の職業的アイデンティティのゆらぎ自己評価尺度」の開発
<p>【目的】病院の勤務経験を有する新人訪問看護師の職業的アイデンティティのゆらぎ自己評価尺度（以下、「新人訪問看護師ゆらぎ自己評価尺度」）の開発である。</p> <p>【方法】尺度は、グローブら（2013/2015）の尺度開発のプロセスに基づき開発した。構成概念は、看護師の職業的アイデンティティを確立するプロセスの構造モデル（グレッグ，2000，2002）を適用し、アイデンティティのラセン式発達モデル（岡本，2002）のアイデンティティのゆらぎの考え方を取り入れ演繹的に定義した。対象は全国の訪問看護事業所 5,000 か所に勤務する病院勤務の経験 3 年以上、就業後 2 年未満の看護師とした。データ収集は自記式質問紙、10,000 通を郵送、再テスト法のため 1,000 事業所には尺度原案 2 通を追加した。データ収集項目は、対象特性、55 項目の尺度原案、看護師の職業的アイデンティティ尺度（以下、PISN）、訪問看護師としての違和感の程度とした。分析は、項目分析後、探索的因子分析による尺度の再構成を行った。信頼性は、クロンバック <math>\alpha</math> 信頼係数、再テスト法による尺度得点の級内相関、妥当性は、探索的因子分析後の因子の解釈、確認的因子分析、PISN 得点と尺度得点との相関、既知グループ法により検討した。</p> <p>【結果】質問紙の回収数は 1,227 人（回収率 12.3%）で、917 人（有効回答率 9.1%）を分析対象とした。項目分析により 16 項目、探索的因子分析により 16 項目を削除し、4 下位尺度 23 項目とした。信頼性は、①クロンバック <math>\alpha</math> 信頼係数は全体 0.903、下位尺度 0.809~0.872、②再テスト法（105 人、有効回答率 5.8%）の尺度得点の級内相関係数は全体 0.755、下位尺度 0.566~0.792 であった。妥当性は、①探索的因子分析後の因子の命名は【自己の訪問看護実践に対する自信のなさ】【訪問看護実践の優先度に対する葛藤】【過去の経験とは異なる訪問看護実践に対するとまどい】【訪問看護実践への教育的支援に対する困惑】、②4 下位尺度 23 項目の確認的因子分析による適合度は、GFI=0.922、AGFI=0.903、CFI=0.928、RMSEA=0.056、③既知グループ法は、訪問看護師の違和感がある群は、ない群に比し尺度・下位尺度の平均得点が有意に高い、④弁別的妥当性は、相関係数が PISN 得点と尺度総得点-0.513、下位尺度得点-0.282~-0.588 と有意な負の相関であった。</p> <p>【考察】本開発尺度は、4 下位尺度 23 項目から構成された。信頼性・妥当性は、統計学的に許容範囲であり、尺度開発に必要な検討によって概ね確保されたと考える。研究の限界は、測定する特性が新人訪問看護師の職業的アイデンティティのゆらぎであり、訪問看護実践の影響により変動する可能性が高い。本開発尺度の課題は活用データの蓄積による尺度の検証であると考えられる。</p>	